

目的 生体内の脂質代謝は、脂肪酸合成・分解系をはじめ諸種変動の代謝を含むものであり、これら代謝系の変動には摂取脂肪とくに脂肪酸組成の影響がある。そこで今回私共は、魚油としてタラ肝油を、鶏卵油として卵黄レシチンを、植物油としてコーン油を用い比率をかえラットに投与し、生体内脂質代謝におよぼす影響について検索したので、その経過並びに結果について報告する。

方法 実験動物の幼若ラットは、5週令ウィスター系雄ラットを用い1週間固形飼料で予備飼育し、実験に供した成熟ラットは約2ヶ月固形飼料で飼育した体重約250gの同様ラットを同様予備飼育した後実験に供した。添加油脂はタラ肝油とコーン油の組み合わせを、10:0、5:5、0:10および7:3の比率で、またレシチンとコーン油の組み合わせを10:0、5:5、0:10および7:3の比率で投与し6週間飼育した後血液を採取した。血清成分の分析は総コレステロール、HDL-コレステロール、 β -リポたん白、GOT、GPTおよびL-CATについて実施した。

結果 発育は各群とも極めてよく、飼育期間中の脱毛・立毛・充血・出血などの異常はみられなかった。血清コレステロール値の変動からみると、コーン油1:1レシチンおよびタラ肝油7:3コーン油の比率が良好な結果となった。また魚肝油と植物油との比較では、明らかに魚肝油の方が良好である結果がえられた。L-CAT値は各油脂添加群の間では変化はみられなかった。